

第一回千葉県海洋再生可能エネルギー導入可能性研究会概要

議題（１）海洋再生可能エネルギー事業に係るメリットデメリット等について

資料１により本研究会の目的を説明

県内における海洋再生可能エネルギーの可能性や課題を漁業協調や産業創出等の様々な角度から整理することにより、「海洋再生可能エネルギーによる産業振興・地域振興の方向性に関する認識を共有する」ことを目的とし、来年度以降において、各関係者の共通理解をベースに、実測調査等の具体的な調査検討を進めることとしたい旨の説明を実施。

木下委員及び長井委員から参考資料１・２により、国内外の海洋再生可能エネルギーの状況を説明

資料２により県内での海洋再生可能エネルギーの状況を説明

銚子沖で実証実験中の着床式洋上風力発電の概要及び片貝漁港（九十九里町）で実証実験が行われた波力発電（発電期間は昭和63年から平成8年まで）の概要について説明を実施。

資料３により本研究会で検討するエネルギー種について説明

議論を効率的に行うため、海洋再生可能エネルギーに関する各種のポテンシャル調査から、本県で主にポテンシャルが高い洋上風力及び波力発電について検討の対象としたい旨の説明を実施。

資料４及び５をたたき台として海洋再生可能エネルギーに係るメリット・デメリット及び課題について議論を実施

【主な意見】

○県の状況

- ・太平洋側で年平均7m/s 年平均（80m高さ）の風がある点と、東京という大消費地に近い点が、千葉県のメリットである。

○漁業協調

- ・「海洋エネ開発ありき」で、そのためにどのように漁業協調をすべきか、という視点になっている。そうではなく、本当に海洋エネを千葉県が利用すべきなのか、それが地域の振興、地域の人々のプラスになるのかという点が重要である。特に経済的な側面だけでなく、地域の「文化」や「誇り」という部分で本当に地域に海洋エネが必要なのか、という第一ステップでの議論が重要。

- ・最終的に漁業者に良いねと言ってもらうためには、地域の文化や市民の目といった観点を踏まえて考えなければならない。
- ・地域の問題・ニーズは色々（例えば密漁対策に海洋エネの施設や設備を活用できないか等）であり、話し合っていくことで、地域にとって良い方向を出していけるのではないか。
- ・よく「^{いしゅう}蝸集効果」※がメリットとして言われるが、島しょ部で海洋エネの実証を進める時に「設置すると魚が集まるから反対」との意見を受けた。設置予定場所がイカの産卵場所に近く、魚が集まることでイカの卵が食べられてしまう、ということだった。「^{いしゅう}蝸集効果」がデメリットになることもある。
 - ※1か所に、多くの魚介類が寄り集まる効果。
- ・一口に漁業といっても漁業権漁業や一本釣りや巻き網など多彩な漁業がある。これら漁業者が所属する漁協を中心に、千葉の手續に沿って、丁寧に調整を進めてもらいたい。
- ・海洋エネについて、分かっているのは「自然に負荷をかける」ということ。その負荷によって漁業がどう影響を受けるのか分からない中で、資料に記載されている「メリット」はマイナス部分を緩和するだけにすぎない。これを「メリットだ」と言われても、漁業者としては「何を言ってるんだ」という話になる。漁業者の想いや考えに立って丁寧に議論を進めるべきである。
- ・漁業者が対立軸としてあげられすぎていると感じる。危惧すべき点である。

○地域振興

- ・利益目的税のような形で海面使用料を徴収し、地域で使えるような形にできないか。漁業振興のため(といった地域で本当に必要とされていること)に活用するということは考えられないか。
- ・海洋エネを活用した観光は産業的にみても非常に有効ではないか。観光産業は1000万人で1.8兆円の効果と言われており、他の産業（建設産業等）と同じくらいの効果がある。（デンマークではサムソ島（4000人程度の島民）が再生可能エネルギーを核として年間50万人の観光・視察を生み出している）

○環境への影響

- ・工事中だと魚は逃げるが、出来た後は魚が戻ってきている、と聞いている。ただし、1基だけでは問題ないが、5基～10基となっていくとどういった影響が出てくるのか明らかにしていく必要がある。

- ・外国の例と国内では違うので影響評価も手探りの状況である。現在、銚子にこれだけの施設ができていますので、これをしっかりとモニタリングしていくことが重要。
- ・五島では、環境影響評価（工事中・稼働中の音や濁り、バードストライクなど）で調べられることをやり過ぎだと思っくらいやっています。しかし、最初のプロジェクトとしてやってみると、やりすぎではなく、必要なことだと思っくようになった。やれることを全部やっくデータを提供していくことも重要ではないか。

○一般の出席者からの主な意見

- ・漁業は非常に厳しい状況で、漁業者・地域の誇りが失われている。海で仕事ができる、港が活用できるというのは明るい話。漁業者からも好意的に話を聞いてもらっている。
- ・資料でメリットとして「他の海域での展開が可能」とあるが、他の海域の関係者と協調や情報交換していく方が、日本にとってはメリットなのではないか。

議題（2）その他

今後の研究会のスケジュール等について説明